

自 己 評 価 表

(愛媛県立今治南高等学校)
学校番号(15)

| | | | |
|------|---|------|---|
| 教育方針 | 徳・知・体の調和のとれた人格の完成を目指し、民主的な国家と平和な社会の形成者となるにふさわしい、たくましく心豊かな人間の育成を期する。 | 重点目標 | 人格の向上を目指し、自ら学び鍛え、社会に貢献できる生徒の育成 ～目標達成に向け、積極的な行動と惜しまぬ努力～ |
|------|---|------|---|

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方策 |
|--------|------------------------|--|----|---|---|
| 学習指導 | 生徒の適性・能力に応じたきめ細かい分かる授業 | 教職員のICT機器利用率100% A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | A | 教職員全員が授業やホームルームでICT機器を利用しており、その内、78%が積極的に活用しようと意識している。 | 教職員全員が自信を持ってICT機器を使えるよう、日常的に学び合う場を設ける。また、今後、生成AIの活用など、高いレベルでのICT活用が課題であり、研修への積極的な参加を促したい。EILsPB T自動採点システムを利用して考査や小テストの採点を全員が行えるよう、再度研修を行い、働き方改革も同時に進めていく。 |
| | 計画的な学習と基礎学力の定着 | 考査前の学習計画と実施率100% A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | D | 考査前の学習計画と実施率は66%であった。また、家庭学習の習慣化については、昨年度80%に対し、今年度は52%に減少した。今年度から考査前に試験範囲と計画表の配付をするようになり、生徒が自らの計画・実施の不十分さに気付いたためだと思われる。一方、教員・保護者の学習習慣化への評価は上昇している。 | 次年度も考査前の計画表配付を継続して行い、計画的な学習を心掛けるよう指導する。また、どのように計画を立てたらよいのかが分からない生徒がいるので、次年度は計画を立てさせるときに担任が適切に助言できるよう、計画立案のための時間を確保する。 |
| 生徒指導 | ルール・マナーの向上 | 登下校時の交通事故0件 A:0件、B:5件、C:10件、D:15件、E:20件以内 | E | 発生件数24件であった。年度早々から交通事故が多発したが、ヘルメット着用の指導を強化したことで、大きなけがはなかった。事故原因は相手の不注意によるものもあるが、生徒の危険を予測する意識が低いと思われる。 | 登校時に毎日正門前で、街頭でも毎月定期的に交通指導を行っている。次年度は各クラスのホームルーム活動でテーマとして取り上げて事故に遭わないよう意識を高めていく。大きな事故を防ぐために引き続きヘルメット着用の必要性を伝えるとともに、交通マナーの向上についても随時指導していく。また、事故が起こった場合の適切な対応についての指導も行う。 |
| | 落ち着いた学校生活 | 校則の遵守を実践できている生徒100% A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | B | 84%の生徒が校則の遵守を、88%の生徒が端正な身だしなみを意識している。生徒会を中心に校則の検討を進めることで、校則に対する意識は高まってきているが、校則を守らない生徒は一定数いる。 | 生徒会や保護者と相談しながら校則の見直しを進めていくとともに、生徒会を通じて全校生徒に対してルールの意義と必要性を伝えていく。校則を守れない生徒に対しては、継続的に指導を行う。 |
| 進路指導 | 進路に応じたキャリア教育 | 進路決定率100%、四年制大学進学40名以上 A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | B | 進路決定99.5% (3月1日現在) 四年制大学41名 ※ 最終的には進路決定率100%、四年制大学42名の見込み | 次年度も、一層、進路に対する早期の意識付けや対策を講じていく。小論文や面接、教科の指導は個に応じて行い、一人一人に対する指導を充実させていく。 |
| 特別活動 | 生徒が輝ける学校 | 大会入賞運動部30以上、文化部10以上、農業クラブ3以上 A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | A | 運動部48 文化部(文化的活動を含む) 13 農業クラブ5 | 生徒数は減少しているが、次年度も同じ目標掲げて取り組ませたい。部活動の精選、選can部の発信を効果的にし、学校の魅力化を図っていく。 |
| | 地域に貢献できる人材の育成 | 地域交流活動40回以上 A:40回以上、B:30回以上、C:20回以上、D:10回以上、E:10回未満 | A | 園芸クリエイト科62回 家庭クラブ9回 しまなみコットンプロジェクト10回 生徒会1回 子ども食堂ボランティア8回 図書委員会3回 吹奏楽部3回 放送部2回 ポート部1回 ジョブウィーク(2年) 常盤地区老人クラブとの交流会(1年) | 園芸クリエイト科だけでなく、普通科においても各部、生徒会、委員会などを中心に地域交流活動を積極的に行っている。教職員の業務負担が偏らないように協力体制を整えて無理なく交流活動を活性化し、自治体や各団体と連携を図りながら、地域を支え、その発展のために積極的に活動する人材の育成に努めていく。 |
| 豊かな人間性 | 明るく元気な学校 | 挨拶ができる生徒100% A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | C | 78%の生徒は気持ちの良い挨拶を行っている。88%の教職員が生徒に挨拶の指導をしている。 | まずは教職員全員が挨拶の意義を生徒に指導していくとともに、生徒の手本となるような元気な挨拶を心掛ける。また、生活委員が挨拶運動を行っているが、次年度は人権委員も参加し、より活発な活動にしていく。 |
| | よりよい社会と人間関係の構築 | 高い人権尊重の意識を持っている生徒100% A:100%、B:80%、C:70%、D:60%、E:50%以下 | B | 92%の生徒が人権侵害をしないよう心掛けているが、生徒同士の人間関係のトラブルは多発している。 | 人権・同和教育ホームルーム活動や講演会、月1回の人権だよりの発行、人権デー、学年による道徳講座、特別活動などを通して自他を尊重する意識を高めるとともに、生徒理解に努め、一人一人に寄り添った指導を行う。いじめにつながるトラブルは早期に見出し、チームで対応する。 |
| 学校運営 | 業務改善 | 会議時間平均30分以内 A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満 | B | 89% (17回/19回) | 会議時間の短縮は進んでいる。悩みを相談しやすい職場環境づくりに一層取り組み、教職員の働き方改革を進めるとともに、働きがいを高めていく。 |

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。